

平成 24 年度(第 57 回) 全国私立中学高等学校  
**私学経営研修会**  
 【報告書】

主催 一般財団法人日本私学教育研究所  
 後援 茨城県・水戸市・茨城県私学協会・日本私立中学高等学校連合会

■■■■■■■■■■ 研究のねらい ■■■■■■■■■■

**明日へと向かう私学の教育と経営の展望**  
 - 困難に打ち克つ教育・募集対策・人材育成 -

東日本大震災からはや一年が経過し復興が進むなか、わが国には諸課題が山積している。景気の減速悪化が世界規模で進み、政局が一層混迷を深めるなかで、現状を回復し課題を打破するのは容易ではない。高校無償化の見直し論など教育政策についても閉塞感は否めないが、私立高校への就学支援金制度は私学に通う生徒とその保護者の選択肢を増やすための一助となり、生徒募集面で私学が良い結果を生んでいる地域もある。その一方で、公立高校授業料の実質無償化によって、学納金を負担する私学の保護者の不公平感は高まり、公私間・地域間格差が広がっている。さらに、一部自治体で導入された私立高校授業料のキャップ制は私学の自主性・独自性を脅かしかねず、義務教育段階の私学助成減額等私立中学校の生徒募集・経営面で逆風となる政策の余波は、近隣他府県の児童生徒と保護者にも及び、今後は二十年振りに中央で議論の進む高等学校教育改革や教員養成方策の行方、東京大学に端を発する国際競争力強化のための「大学秋入学」提言等、私立中学高等学校にとって注視すべき動きが起きている。地震・津波や台風等の自然災害を教訓に、児童生徒にとって安全な防災対策のあり方と危機管理能力が学校に問われる中、私学への通学時間等も保護者にとって学校選択の大きな要因となる中で、私学の経営環境はより厳しさを増している。

これら幾多の出来事は、確かに絶望や苦難をもたらしたが、同時にこれからの生き方・進み方を私たちに問いかけ、新たな価値観を真剣に考えるきっかけを与えた。人々の勤勉さ、ひたむきさ、芯の強さは、今後の“人財立国”日本の発展の礎となるだろう。わが国の未来を拓く人づくりをリードするのは、私立学校に課された責務である。

これからの私立学校には、希望を持って未来を目指し、柔軟に特色を活かした教育の研究実践に努めるとともに、生徒・保護者等のニーズを見極め、学校の危機対応力を高めていくことが欠かせない。より効果的な生徒募集対策に創意工夫を凝らし、知恵を出し合い、私学に求められる教育を提供できる教員の育成に取り組み、グローバル社会で強く生きていく子どもたちを世に送り出すべく学校運営に努めることで、この局面を乗り切りたい。

本年度の研修会では、困難に直面する私立学校とその生徒たちの“明日”を築くための【教育と経営】【募集対策】【人材育成】を中心に報告・討議を進める。中央と地方からの情勢報告に加えて、各地からの参加者が交流を深め、各校の現状と課題を語り合い、抱える悩みを共有し、解決のヒントを模索できるよう、グループ討議等の時間枠を拡げ、意見交換と懇談の時間を設けた。さらに東北3県に欠く震災被害を受けられた茨城県の【学校視察】を実施する。逆境に立ち向かい打ち克つことのできる私学人を目指し、茨城の地に集い、情報と経験を共有し、前向きな意見・提言が発信され、参加者が持ち帰る本研修会の成果が各地私学の更なる活性化に資することを期待している。

- ◆ 会 期 平成 24 年 6 月 7 日 (木) ～ 6 月 8 日 (金) の 2 日間
- ◆ 会 場 茨城県 水戸市 ホテルレイクビュー水戸  
茨城県水戸市宮町 1 丁目 電話 029(224)2727
- ◆ 参加人員 145 名 (募集 150 名)
- ◆ 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、事務長またはこれに準ずる管理職の方
- ◆ 日 程

時刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	30			30	30	30	30	30	30	30	30
6月7日 (木)	受 付	開 会 式	講演 <small>中高連会長</small>	基調講演	昼食	報 告 中高連 茨城県 日私教研		パ ネ ル ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン			教 育 懇 談 会
6月8日 (金)	意 見 交 換 会 (グループ討議～全体会)			総 括	昼 食	学 校 視 察 A 水戸市内コース (茨城中学高校～水戸女子高校)					
					昼 食	学 校 視 察 B 日立市～水戸市コース (茨城キリスト教学園中学高校～水城高校)					

- ◆ 講師・指導員 (順不同)
- 高野 英一 タカノフーズ株式会社 取締役会長
- 森 征一 常磐大学・常磐短期大学 学長
- 吉田 淳 茨城県総務部総務課私学振興室 室長
- 工藤 誠一 聖光学院中学高等学校 理事長・校長
- 吉田 晋 富士見丘中学高等学校 理事長・校長

山中 幸平 学校法人山中学園 理事長  
 中川 武夫 淑徳SC中等部高等部 顧問  
 大羽 克弘 千葉英和高等学校 理事長・校長  
 山本与志春 青山学院中等部 部長  
 須藤 勉 東京学園高等学校 校長  
 金野 眞行 帝京八王子中学高等学校 校長

◆ 専門委員・客員研究員・指導員（順不同）

實吉 幹夫 東京女子学園中学高等学校 理事長・校長  
 長塚 篤夫 順天中学高等学校 校長  
 鈴木 康之 水戸女子高等学校 理事長・校長  
 木内 秀樹 東京成徳大学中学高等学校 校長  
 廣瀬 和喜 学校法人東洋大学 理事  
 真城 義麿 大谷中学高等学校 前校長  
 新田光之助 筑陽学園中学高等学校 理事長・高校長  
 野原 明 文化学園大学杉並中学高等学校 特別顧問・名誉校長  
 鈴木 秀一 一般財団法人日本私学教育研究所 事務局長

◆ 事務担当

川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所 主幹  
 西沢 紀子 一般財団法人日本私学教育研究所 主幹

◆ 日程・プログラム

第1日 6月7日(木)

会場：ホテルレイクビュー水戸2階「飛天」(A 飛天+B 鳳凰)  
 (司会・講師紹介等) 一般財団法人日本私学教育研究所 事務局長 鈴木 秀一

09:00	◇ 受付
09:30	◇ 開会式 1. 開会 2. 主催者代表挨拶 吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 3. 来賓祝辞 橋本 昌 茨城県知事 (代理出席 加藤 安章 茨城県総務部総務課長) 来賓祝辞 高橋 靖 水戸市長 4. 開催県代表挨拶 廣瀬 和喜 茨城県私学協会 会長 5. 役員・専門委員紹介 6. 研修会運営方針説明 實吉 幹夫 一般財団法人日本私学教育研究所 私学経営専門委員長
10:00	◇ 講演 演題 「最近の教育政策と私学情勢」 講師 吉田 晋 日本私立中学高等学校連合会 会長 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長
11:00	◇ 基調講演 演題 「『自分づくり 自己づくり』と経営」 講師 高野 英一 タカノフーズ株式会社取締役会長
12:30	◇ 昼食
13:30	◇ 報告Ⅰ テーマ 「教育制度改革の動向と私学の理念」 報告者 實吉 幹夫 日本私立中学高等学校連合会 教育制度委員長 一般財団法人日本私学教育研究所 副理事長
14:30	◇ 報告Ⅱ テーマ 「茨城県の私学振興」 報告者 吉田 淳 茨城県総務部総務課私学振興室 室長
15:00	◇ 報告Ⅲ テーマ 「教育改革と私学の人材育成 - 日私教研の取り組み -」 報告者 中川 武夫 一般財団法人日本私学教育研究所 所長
15:30	◇ パネル・ディスカッション テーマ 「明日へと向かう私学の教育と経営の展望」 - 困難に打ち克つ教育・募集対策・人材育成 - パネリスト 森 征一 常磐大学・常磐短期大学 学長 パネリスト 工藤 誠一 聖光学院中学高等学校 理事長・校長 パネリスト 野原 明 教育ジャーナリスト・文化学園大学 名誉教授 コーディネーター 木内 秀樹 東京成徳大学中学高等学校 校長
17:30	

18:00	◇ <b>教育懇談会</b> <span style="float: right;">〈会場:2階飛天(B 鳳凰+C 紫峰)〉</span> 1. 開会 2. 主催者挨拶 山中 幸平 一般財団法人日本私学教育研究所 副理事長 3. 来賓挨拶 橋本 昌 茨城県知事 4. 乾杯 佐藤 敏近 茨城県私学協会 理事 ~ 懇談 ~ 5. 次年度開催県代表挨拶 武田 哲司 広島県私立中学高等学校協会 会長 6. 閉会
19:30	※着席形式 (6/8 意見交換会分科会グループ討議と同グループ)

第2日 6月8日(金)

会場:ホテルレイクビュー水戸2階「飛天」(A 飛天+B 鳳凰+C 紫峰)  
 〈司会・講師紹介等〉一般財団法人日本私学教育研究所 事務局長 鈴木 秀一

09:00	◇ <b>意見交換会(分科会~全体会)</b> メインテーマ「明日へと向かう私学の教育と経営の展望」 —困難に打ち克つ教育・募集対策・人材育成— 総合進行役 長塚 篤夫 教育制度専門委員長 世話役 實吉 幹夫 私学経営専門委員長 野原 明 教育制度客員研究員 鈴木 康之 私学経営副専門委員長 山中 幸平 副理事長 木内 秀樹 私学経営専門委員 中川 武夫 所長 廣瀬 和喜 私学経営臨時委員 大羽 克弘 千葉英和高等学校理事長・校長 長塚 篤夫 教育制度専門委員長 山本与志春 青山学院中等部校長 真城 義麿 教育制度専門委員 須藤 勉 東京学園高等学校校長 新田光之助 教育制度専門委員 金野 眞行 帝京八王子中学高等学校校長
09:00~ 11:00	1. 分科会(グループ討議) ☆重点テーマ ①教育理念と経営課題、②学校改革、③リーダーと組織活性化、④教員の人材育成、 ⑤グローバル人材育成/安全管理・危機対応、⑥募集対策・進路対策 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           ①~⑥の重点テーマを基にグループ編成(各10名程度)。各グループの世話役がキーマンとなり、重点テーマを中心に派生する課題等に関する参加者主体による報告討議を促進する。         </div>
11:00~ 11:50	2. 全体会 ☆分科会報告…分科会の各グループ代表(進行役または参加者)による報告 ☆意見交換会…分科会報告・研修会全体を受けて参加者による質疑・意見交換
11:50	◇ <b>総括</b> 實吉 幹夫 一般財団法人日本私学教育研究所 私学経営専門委員長
12:00	◇ <b>昼食</b>
A13:00 B12:30	◇ <b>学校視察</b> A・Bの2コース 《各学校の視察…約1時間》
A13:00 ~15:45	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>A 水戸市内コース</b>            ① 茨城中学高等学校(共学校・中高一貫教育校)……………水戸市八幡町16-1            ② 水戸女子高等学校(女子校・高校単独校)……………水戸市上水戸1-2-1         </div> <p>[A 水戸市内コース]          13:00 ホテルレイクビュー水戸出発、バスで視察校①へ          13:15 ①茨城中学高等学校視察(学校紹介、授業・施設設備見学等)          14:15 バスで視察校②へ          14:30 ②水戸女子高等学校視察(学校紹介、授業・施設設備見学等)          ※新校舎建築中のため、震災時の学校の対応の説明及び仮設校舎の見学となります。          15:30 バスでホテルレイクビュー水戸へ、帰着後解散(15:45頃)</p>
B12:30 ~16:35	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>B 日立市~水戸市コース</b>            ① 茨城キリスト教学園中学高等学校(共学校・中高一貫教育校)…日立市大みか町6-11-1            ② 水城高等学校(共学校・高校単独校)……………水戸市白梅2-1-45         </div> <p>[B 日立市~水戸市コース]          12:30 ホテルレイクビュー水戸出発、バスで視察校①へ          13:30 ①茨城キリスト教学園中学高等学校視察(学校紹介、授業・施設設備見学等)          14:30 バスで視察校②へ          15:30 ②水城高等学校視察(学校紹介、授業・施設設備見学等)          16:30 バスでホテルレイクビュー水戸へ、帰着後解散(16:35頃)</p>
	〈控室…2階〉「常磐」(来賓・講師・専門委員等)、「皆楽」(事務局)

**－平成24年－**  
**一般財団法人日本私学教育研究所は、**  
**私学経営研修会の開催をとおして**  
**被災地の私立学校の復興を支援していきます**

**《全国の私学が力を合わせて、想いを一つに》**

今年の私学経営研修会は、茨城県・水戸市において開催いたします。  
震災被害が甚大であった東北三県に目が向けられることが多いなかで、  
茨城県の私立学校もまた大きな被害を受けられました。

しかし、大変な状況であるにもかかわらず、  
今回の私学経営研修会の開催地となることを快く引き受けて下さいました。  
茨城県の私立学校と関係者に対して心よりお礼申し上げます。

一人の私学人として、全国の私立中学高等学校の皆さんが、  
今年、茨城の地に立ち、  
ご自身の目で県の経験と現状を体感し、私学人の想いを共有することによって、  
少しでも県私立学校を側面から支えることができればとの思いです。

とくに研修会のプログラムとして  
水戸市・日立市の私立中学高等学校の協力を得て、  
学校視察を2コース用意しています。

全国の私学人が心をつなぐことではじめて  
私立学校は未来を拓くことができるのです。

多くの私学の先生方が、  
全国から茨城県・水戸市にお運び下さるよう  
心よりお願い申し上げます。

そして、日本私学教育研究所は、  
平成24年4月1日  
「一般財団法人日本私学教育研究所」に移行いたしました。  
これを機に、『私立学校のシンクタンク』として  
一層皆様のお役に立つよう努力を重ねてまいります。

一般財団法人日本私学教育研究所  
私学経営専門委員長 實吉 幹夫



## 平成24年度私学経営研修会 [茨城県水戸市] 開催報告

～全国から私立中学高等学校理事長・校長ら145名が参加～

6月7日・8日の両日、水戸市・ホテルレイクビュー水戸で開催した今年度私学経営研修会は、北海道から鹿児島まで全国30都道府県から私立中学高校の理事長、校長等145名が参加、「明日へと向かう私学の教育と経営の展望」を研究のねらいに、困難に打ち克つための「教育」「募集対策」「人材育成」を多角的に探った。

### 【開会式】

はじめに主催者を代表して吉田晋・一般財団法人日本私学教育研究所理事長は、「東北三県に次ぐ震災被害を受けた茨城県と県私学関係者の協力にお礼を申し上げたい。日私教研はこれに応えるべく、研修会を通して県と県私学の復興を支援していく。一校一校が力を合わせることで私学全体の底上げと活性化を進めていきたい」と挨拶した。

茨城県からは公務の橋本昌県知事に代わり加藤安章・県総務部総務課長が県知事祝辞を披露、少子化・景気低迷等厳しい財政状況に加えて震災で県私学も甚大な被害を受ける等復興への道半ばながら、県として震災を教訓に安全な教育環境整備と避難対策の構築が早急に求められており、資源少国で益々重視される人づくりの一翼を担う私学に対してできる限りの支援に努めていく所存であり、私学関係者には先進的な学校づくり人づくりに励まされたいと述べた。

高橋靖・水戸市長は、挨拶で「新たな時代に応える人材育成を重視した魅力ある教育を目標に、市内私学と切磋琢磨し競い合うことで全体の教育の向上を図るよう努力していく」と語った。県私学を代表して、廣瀬和喜・茨城県私学協会会長は、「水戸の地に参集された私学人を歓迎するとともに、先の震災時に茨城県私学に対して全国の私学関係者から寄せられた温かい心遣いにお礼申し上げる」と感謝の辞を述べた。



開会式で吉田晋・日私教研理事長が挨拶



加藤安章・茨城県総務課長



高橋靖・水戸市長



廣瀬和喜・茨城県私学協会会長

### 【基調講演】

地元産業界を代表してタカノフーズ(株)・高野英一取締役会長が登壇、「『自分づくり 自己づくり』と経営」と題して、企業経営者・組織トップとしての低い姿勢、揺るぎない信念と強い責任感、逆境をバネにした自己成長の体験等を語り、社員と次世代の幸福と成長を促す教育環境整備への取り組みと生涯学習の重要性等を論じた。

### 【中央と開催県の情勢報告】

中高連からは、吉田晋会長が私学助成と教育費、高校無償化・就学支援金と生徒収容等に関する全国と大阪府等地域が抱える課題、中教審をはじめ国の諸会議検討の進む第2期教育振興基本計画策定、高校教育改革、教員の資質能力向上策等、私学を取り巻く最新情勢について講演を行った。吉田会長は、教員の資質能力向上策を語る前提として「教員の地位向上」が不可欠であり、中央団体として経常費助成・地方交付税・就学支援金等私学の財源確保と日々刻々と変わる情報の発信に努めていくと述べ、将来ある子どもたちが自由に学校選択できるよう「私学は全体で一つ」の精神のもと、各私学はそれぞれ都道府県において財源措置額の確保と学校の維持発展に努められたいと要請した。

實吉幹夫・中高連教育制度委員長は、教育制度改革の動向、中教審等への“もの言う私学”としての中央団体の諸活動、教員資質能力向上と修士レベル化の方向性への懸念、中高一貫教育校など学校段階間の接続・連携等の課題と文科省との折衝状況、学校評価への私学としての対応、東京大学提言に端を発する大学秋入学の動き等に加えて、私学の理念とリーダーシップ論を取り上げ、報告を行った。

開催県からは、吉田淳・茨城県私学振興室長が県の私学振興策と震災時の対応について報告を行った。県としては建学の精神に基づく特色ある教育活動を通して県の人づくりを支える私学の重要性を認識しており、厳しい財政状況下ではあっても私学助成予算獲得に努めるとともに震災被災校と生徒等に対してできる限りの支援を行っていった。

日私教研を代表して中川武夫所長は、中教審等で検討の進む国の教育改革の流れや提言等を踏まえて、私学にとって喫緊の課題を各種研修会のテーマとして迅速にとりあげ、全国の私学人育成に資するべく実施する研修会・講習会の質の向上に努めていることに触れ、文科省公募事業で採択された震災関連調査研究・復興支援教育等の研究事業、ホームページを中心とした広報活動による私学の情報発信等の諸事例を紹介・報告した。



高野英一・タカノフーズ会長



吉田 晋・中高連会長



實吉 幹夫・中高教育制度委員長



吉田 淳・茨城県私学振興室長



中川 武夫・日私教研所長

### 【パネル・ディスカッション】

パネリストの工藤誠一・聖光学院中学高校理事長・校長、教育ジャーナリストの野原明氏、森征一・常磐大学学長が研究のねらいをテーマに、**私学が困難に打ち克つための「教育」「募集対策」「人材育成」**の三論点から報告した。各パネリストは私学らしさを前面に出す力強い提言を行った。これらをもとにコーディネーターの木内秀樹・東京成徳大学中学高校校長がディスカッションを通して三氏からさらに私学人に勇気を与える意見と提言を引き出した。参加者からは、授業評価の課題、私学の教育課程の大綱化に関する質問が寄せられた。

#### ①私学求められる「教育」

- ◇森氏「21世紀のグローバル化社会を生きる生徒・学生に不足するコミュニケーション能力を身に付けるためのディスカッション中心の『対話型学習』、自分で考え主体的に学ぶ問題解決能力を育むための『プロジェクト型学習』への授業・学習方法の転換・開発が、中学・高校・大学を問わず私学にいま求められている。」
- ◇野原氏「教育に最も重要なのは学力で、東大の秋入学提言を機に学校教育で育むべき真の学力とは何か考えていくべき。建学の精神、教育方針、校長の考え方を軸に生徒が身に付ける学力を教員が具現化する。各校と生徒の状況を踏まえよく考え責任持って理論づけた教育課程を私学らしい独自性をもって組む。そこに私学の生きる道がある。」
- ◇工藤氏「私学は教育課程編成権を活かし人材を育み教育力を高めるべき。専門に偏らぬ幅と奥行きある教育が肝要。」

#### ②私学の「募集対策」

- ◇工藤氏「母親が情報をスマホで得る時代に媒体等募集対策に関わる広報手法に発想の転換が求められる。中学校入試ならば私学進学を望む保護者に加えて公立志向者の掘り起こしに私学全体で取り組むことも必要だ。子どもの夢に向かい6年間頑張ると公言し保護者が子どもの将来に期待できる学校のイメージを打ち出すことも大切だ。」
- ◇野原氏「校舎改築や制服・修学旅行変更の効果は時限的。募集対策の決め手は教育の中身で、学校の方針を明確に打ち出すことだ。教員には皆が入試担当委員との意識を持って授業をきちんと行い発信できるよう求めたい。」

#### ③私学の「人材育成」

- ◇工藤氏「人材育成で公立に求められるのが平等と社会的統合の原理、他方自由と社会的多様性の原理を保証するのが私学だ。その中で積み重ねた独自の私学教育の尊重と同時に時代に順応していくことを忘れてはならない。」
- ◇野原氏「私学は教員人事採用権を活かし必要な教員の資質能力を見極め得る。教員が本や新聞を読まなければ自らものを考え生徒の質問に答えるのは難しい。多忙な教員間で話し合う時間と余裕を作り出す心がけも欠かせない。」



コーディネーターの木内秀樹氏とパネリスト(森征一氏、工藤誠一氏・野原明氏)



フロアとの質疑



## 【教育懇談会】

山中幸平・日私教研副理事長による主催者挨拶の後、橋本昌・茨城県知事が全国の私学人に歓迎の挨拶を行った。佐藤敏近・茨城県私学協会副会長による乾杯後、参加者は翌日意見交換会と同グループで卓を囲み、交流を深めた。会の締め括りに次期研修会開催県代表の武田哲司・広島県私立中学高等学校協会会長が来年度に向け抱負を述べた。



山中幸平・日私教研副理事長



橋本昌・茨城県知事



佐藤敏近・茨城県私学協会副会長



武田哲司・広島県私立中高協会会長

## 【意見交換会（分科会・全体会）】

2日目の意見交換会は、分科会(グループ討議)と全体会の二部構成で進められた。はじめに日私教研役員等が務める世話役を軸に、「教育理念と経営課題」「学校改革」「リーダーと組織活性化」「教員の人材育成」「グローバル人材育成/安全管理・危機対応」「募集対策・進路対策」の6つのテーマ別グループ討議で各学校の現状と課題を報告した。学校や地域は異なっても抱える課題に共通点は多く、討議では夜の教育懇談会で打ちとけたメンバー同士が本音で語り合い、熱く意見を交わした。続く全体会では、世話役や記者がグループ討議の概要を報告、情報を共有した。

進行役の長塚篤夫・教育制度専門委員長は「審議の進む高校教育改革においてもその多様性を担ってきたのは私学である。まさに“百の制度改革より一人の優秀な教員”、我々は何れのテーマにおいてもその鍵となる重要な課題は“**教員の育成**”に尽きるとの共通認識を得た」と述べ、意見交換会のまとめとした。



## 【研修会総括～閉会】

實吉幹夫・私学経営専門委員長(日私教研副理事長)は、参加者の協力により本研修会が滞りなく終了したことへの謝辞を述べ、10月の全国私学教育研究集会岩手大会私学経営部会、来年度私学経営研修会での再会を期して閉会した。

## 【学校視察】

午後からは『茨城中学高等学校～水戸女子高等学校』と『茨城キリスト教学園中学高等学校～水城高等学校』の2コースに分かれ、授業と部活動等に取り組む生徒や教員の様子と施設設備を視察、震災時の学校対応の説明を受けた。



茨城中学高等学校



水戸女子高等学校



茨城キリスト教学園中学高等学校



水城高等学校

## 《参加者から寄せられた声》

### ◇基調講演◇

- 企業人の視点での人材育成、教育の本質等、学校現場では気付かない幅広い視点から考えさせられた。
- 経営の現場、最前線で活躍中の講師の話は説得力がある。経営責任を負う者として刺激的であった。
- 経営者・人として、講師の姿勢・生き方に共感、学ぶ所多し。○人生訓よりも経営の具体例を多く聴きたい。
- 経営者の厳しい自覚、強い信念、リーダーとしての心構え・立ち位置を再確認した。

### ◇中央情勢に関する講演・報告◇

- 国の政策や私学との関係、地方(大阪・京都・埼玉)の状況等、最新情報・事例が要を得て報告された。
- 私学の中央への発信内容が理解できた。○私学を取り巻く情勢を知っておく必要性を痛感した。
- 教育制度改革と私学教育・現場との間にギャップがあり、動向を注視していかなければならない。
- 「私学とは」という認識の強化、私学としての理念の重要性を感じた。○充実した資料で参考になった。
- 日私教研の活動内容・取り組みがわかりやすく、今後も研修会に参加しようと思った。
- 内容が盛り沢山で、時間が足りない。○やや消化不良の感があり、焦点を絞った形での報告を望む。

### ◇開催県報告◇

- 県の私学の現状と私学振興の姿勢が理解できた。○大震災に係る私学災害復旧支援の話が参考になる。
- テーマの割に内容は各都道府県レベルのものと同様だった。○県の話の聴きだけでは参考にならない。

### ◇パネル・ディスカッション◇

- 三者三様、様々な視点からの意見を聞き、その内容は本校ですぐに取り入れ得るものがあり有益だった。
- パネリストのビジョンが明確で、自分の考えを整理するのに参考になった。提言に刺激を受けた。
- パネリストの率直な本音を交えた現場に直結した意見・取り組みは様々な活動の目安・ヒントにつながる。
- 募集対策で「教育の中身が重要」との意見に同感。○白くていいテーブルに関する議論が興味深い。
- 大学と高校現場の教育観・学力観の違いが伝わった。○もう少し時間をかけて掘り下げて良かった。
- 経営に悩む学校にとって参考になる点は少ない。

### ◇教育懇談会◇

- 翌日の意見交換会のメンバーと予め会食できたのは有意義だった。
- 意見交換会と同じメンバーでのテーブルを囲むという翌日につながる設定・配慮ある企画が非常に良い。
- 飲食と共に和やかに会話が進み打ち解けて距離が縮まり、意見交換会で具体的事例が出る契機となった。

### ◇意見交換会◇

- 研修会に参加して良かったと実感できる内容だった。私学は一様でないから面白く、だからこそ参考になる。
- 各学校の状況・問題点と解決策にそれ程差異はなく、私学に共通することが明確になった。
- 参加者同士が直接話し合い、率直に意見交換ができたことはとても良かった。
- 他校・他県の現状、課題と取り組みがよく分かり、自校の置かれた状況と比較できて、大変参考になった。
- 普段は聞くことのできない突っ込んだ内容も話すことができ、刺激的かつ有意義であった。
- 参加の先生方がエネルギーに取組む様子がうかがえて、自分も前向きに取り組んでいく覚悟ができた。
- 積極的な発言が多く、時間が足りなかった。○時間的制約の中で方向性を見いだすのは難しかった。
- 該当テーマに詳しい、または取り組みを進めている学校関係者がアドバイザーとして入るとなると良いと思う。

### ◇学校視察◇

- 茨城中高校の新校舎の工夫が興味深く、水戸女子高校の新校舎への情熱・想いがよくわかり感動した。
- 耐震及び災害時初期対応のスピードの重要性を痛感した。○被災された大変な状況下の受入れに感謝。
- 茨城キリスト教学園中高校で米国型キャンパスと中高一貫教育への取り組みに触れ、水城高校は生徒が多く活気があった。特徴ある2校の視察は有意義だ。○他の学校現場、生徒の様子を見るのは有難い。

### 《今後の研修会等への要望》

- 「学校改革の実践事例」「生徒募集の成功事例」「公立中高一貫教育校との差別化策」等、上手く行っている学校の具体的な事例発表を聞きたい。○震災関連の経過報告、危機管理の分科会があれば良い。
- 全体に盛り沢山。もう少し企画を絞り込めば議論も尽くせるのではないかと。
- 初日のスケジュールがタイト。プログラムの時間を短縮して休憩時間を予め設ける等、時間にゆとりがほしい。
- 意見交換時にグループ内で学校案内を配布すれば、さらなる情報交換に資すると思う。

☆アンケート回答数・提出率 … 55名・37.9%

☆参加目的 …

- ①他校の参考事例・課題収集(26.3%)
- ②中央最新情報収集(20.3%)
- ③自己研鑽・知見拡大(19.6%)
- ④参加者との情報交換・交流(18.0%)
- ⑤所属校の課題解決、改革、発展(15.8%)



平成24年度私学経営研修会参加人数（都道府県別）

北海道	1	東京	32	島根	1
岩手	1	岐阜	4	広島	6
宮城	2	静岡	4	香川	1
福島	1	愛知	6	福岡	4
新潟	1	三重	1	長崎	1
茨城	33	滋賀	1	熊本	1
栃木	1	京都	5	大分	2
群馬	1	大阪	4	鹿児島	1
埼玉	1	兵庫	5	合計	
千葉	14	奈良	3	30 都道府県	145名
神奈川	6	鳥取	1		

\*\*\*\*\*

H.24.6.8 茨城新聞

### 私学経営の課題探る 水戸で研修会始まる



全国私立中高校の管理職が集う本年度の「私学経営研修会」が7日、水戸市宮町1丁目のホテルレイクビュー水戸で開幕。「明日へと向かう私学の教育と経営の展望」をテーマに、各校の現状と課題について活発に意見交換された。研修会は8日まで行われる。研修会には全国から145人が参加した。主催者を代表し日本私学教育研究所の吉田晋理理事長は「茨城は震災で大きな被害を受けた。逆境に打ち勝つことのできる私学人を目指す」とともに、私学のさらなる活性化に期待を込め、「私学が社会に果たすべき役割を再認識し、さらなる活性化に期待を込め、私学のさらなる発展に貢献する」と述べた。

初日はタカノフーズの高野英一会長による基調講演のほか、県私学振興室の吉田淳室長が県の私学振興について報告した。困難に打ち勝つ教育、募集対策、人材育成に関してパネルディスカッションも開かれた。

2日目はテーマごとに分かれてのグループ討議や、水戸、日立両市内の私立中高への視察が実施される。

\*\*\*\*\*

**【予告】～平成25年度私学経営研修会は 広島県・広島市で 平成25年6月6日・7日に開催予定～**

\*\*\*\*\*